

仁成歩さん（7歳） 概要説明

1歳半検診で言葉の遅れを指摘され、2歳児健康教室で改めて相談し、療育へ通うこととした。3歳、児童発達支援事業所〇〇園へ通所開始と△△保育園へ入園し、並行通園を開始した。4歳、医療センターを受診し、自閉スペクトラム症の診断を受ける。療育手帳 B2 取得。

7歳（小1）、地元小学校の知的障害児支援学級へ入級。

小1の3学期に、母より「学校生活にも慣れ、子どもの集団の中で成長を感じている部分があるが、自宅の近くに同学年の友達がいないので子ども集団の中での楽しさを体験させたい。家では、弟にも手をかけてあげたいが、歩さんに手がかかりすぎてしまっている。」ということで、放課後等デイサービス利用の希望が市福祉課に出た。本人も帰宅後にお友達と楽しく過ごす時間があるといいなという思いがある。市福祉課を通して相談支援事業所の相談が入り、放課後等デイサービス事業所〇〇を見学、体験したところ、利用したいとの意向であった。

家族構成：父、母、弟 両親の祖父母は他県に住んでおり、頼れる親戚は近くにいない。

父は子育てに協力的ではあるが、帰宅が遅い。

母は事務パートで、時間の融通はつきやすい。毎日の登下校の同行をしている。子育ては母が中心。歩さんは母の指示しか聞かない。

弟は保育園在籍。

【着脱・食事・排泄】見守りが必要な部分はあるがほぼ自立。

【学習面】

・ひらがたと数字を読むことができる。

【コミュニケーション面】

・「〇〇やっていい？」等簡単なことは大人に言葉で伝えることができ、大人に聞いてから行動することができる。

・具体的な短い言葉で伝えられると分かりやすい。

・視覚的な提示があるとより理解がしやすい。

・母親が強い態度で示すまで、自分の思いを押し通そうとし、家庭内でも大変な場面がある。

・嫌な時はグズグズ言い、寝転んで抵抗することが見られ、思いを適切に表出できないことがある。

【社会性】

・お友達へは自分から近づいていき、一緒に遊びたい気持ちはある。お友達からの声掛

けの受け入れはスムーズなことが多い。

- ・ルーティン化した場面では自分で行動でき、落ち着いて過ごしているが、初めての場所や活動は不安がある。

- ・学習内容や学校の時間割も書かれていると概ね理解し、支援学級と原級の行き来や活動参加も見通しをもって行動ができるようになってきた。

- ・集団活動（特に行事などのイレギュラーなこと）では、一旦その場を離れて様子を見てから活動参加を促すと、活動へ参加できることが増えてきた。

【放課後等デイサービス事業所〇〇について】

- ・定員 10 名

- ・平日は放課後～18：00までの利用ができる。利用児を学校へお迎えに行き、保護者がお迎えに来るまでの時間の利用となっている。

- ・土曜日は8：30～18：00までの利用ができる。

- ・活動内容

室内活動は、調理活動や季節に合わせた創作活動や、遊戯室を使った運動遊びなど。

戸外活動では公園へ行く、買い物外出をするなど。

活動外の時間帯は、宿題をしたり、好きな遊び（玩具あり）をして自由に過ごす。

- ・仁成歩さんの通う小学校の通学区内にある事業所。

資料(放課後デイ)1-1

申請者の現状(基本情報)

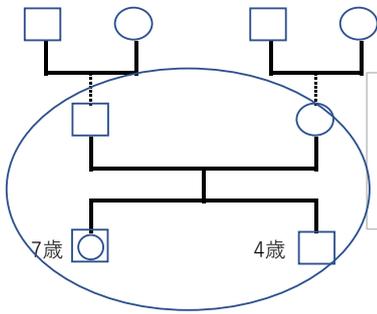
作成日	〇年3月10日	相談支援事業者名	〇〇相談支援センター	計画作成担当者	
-----	---------	----------	------------	---------	--

◆ 概要(支援経過・現状と課題等)

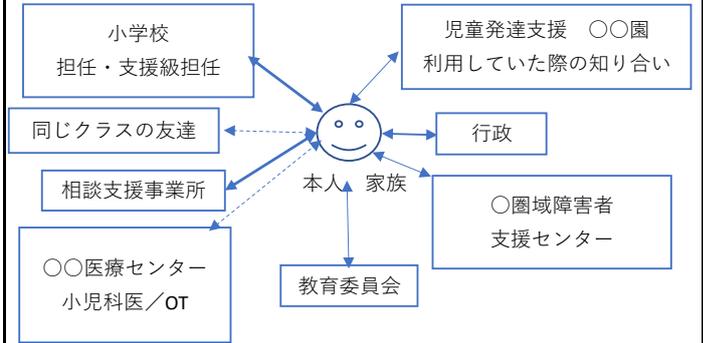
〇年〇月 出生
 〇年〇月 1歳半健診で言葉の遅れを指摘された。
 〇年〇月 2歳児健康教室で改めて相談をしたところ、療育へ通うことを勧められた。
 〇年〇月 (3歳〇ヶ月) 児童発達支援事業〇〇園入園 及び△△保育所入園(併行通園)
 〇年〇月 (4歳〇ヶ月) 〇〇医療センター受診。自閉スペクトラム症の診断
 療育手帳B2取得
 〇年3月 (6歳〇ヶ月) 児童発達支援事業〇〇園卒園及び△△保育所卒園
 *教育支援委員会の判断は特別支援学級(知障学級)入級判定。
 〇年4月 (7歳〇ヶ月・小1) 地元小学校(知障学級利用)入学
 小1三学期 母親より、福祉サービスを使いたい旨〇〇市担当課に相談が入り、相談支援専門員へ繋がる。
 〇年2月 (7歳〇か月・小1) 放課後等デイサービス〇〇を見学、体験利用する。

氏名	仁成 歩	生年月日	〇年〇月〇日	年齢	7歳
住所	長野県〇〇市	電話番号		12-3456	
	持ち家	FAX番号		12-3456	
障害または疾患名	自閉スペクトラム症	障害支援区分		性別	男

家族構成 ※年齢、職業、主たる介護者等を記入



社会関係図 ※本人と関わりを持つ機関・人物等(役割)



生活歴 ※受診歴等含む

〇年〇月 (4歳〇ヶ月) 〇〇医療センター 発達外来受診。OT開始。

<発達検査の経過>

〇年〇月 (5歳〇ヶ月) 発達検査 WPPSI実施 言語性・動作性共にIQ45 全検査 FIQ=45 精神遅滞に分類

医療の状況 ※受診科目、頻度、主治医、疾患名、服薬状況等

〇〇医療センター発達外来

疾患名: 自閉スペクトラム症の診断
 主治医: A医師 (6ヶ月に1回の受診)
 OT: 月2回

本人の主訴(意向・希望)

僕は好きなこと(電車、虫探し、パズルが大好き)がたくさんあります。でも好きすぎて、しなければいけないことを忘れてしまう時があります。でも予定を覚えておいてもらえると、頑張れるようになってきました。僕も友だちと追いかけてごっこを楽しんだり、友だちと一緒に楽しく過ごしたいです。
 放課後等デイサービス〇〇は知っているお友達もいたので通ってみたいです。

家族の主訴(意向・希望)

小学校入学後、家族の協力により、放課後は家庭内で見てきた。学校生活を送る中で、子ども集団の中で成長してきている様子がある。言葉数も増え、伸びてきている部分を活用して、場面に合った行動を学んで欲しい。近所に同じ学年の子がおらず、また頼れる親族が近くにいないので、可能な限り放課後の支援をいれて欲しい。放課後等デイサービス〇〇は本人の笑顔も見られ好印象だったので利用したい。(母)

◆ 支援の状況

	名称	提供機関・提供者	頻度	備考
公的支援 (障害福祉サービス、介護保険等)				
その他の支援				

障害児支援利用計画書

利用者氏名（児童氏名）	仁成 歩	障害支援区分		相談支援事業者名	〇〇相談支援センター
保護者氏名	仁成 父	本人との続柄	父		
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	4,600円	計画作成担当者	
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号	12345678		

計画作成日	〇年3月10日（サービス利用開始 〇年4月～）	モニタリング期間（開始年月）	〇年4月、5月、6月、12月、〇年3月	利用者同意署名欄	
-------	-------------------------	----------------	---------------------	----------	--

利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活）	僕は苦手な事もあるけれど、原級や支援級で勉強や活動に一生懸命取り組んでいます。 急な予定の変更やたくさんのお話を一度に言われると分からなくなってしまうので、僕が分かるように教えて欲しいです。
総合的な援助の方針	歩さんの得意な事を活かして環境を整えると意欲的に過ごせそうです。物事へ挑戦する気持ちや、頑張る気持ちを支えながら、集団の中で良い経験を積み重ねましょう。そのような中で歩さんの自信と意欲が育まれ、周囲と折り合う力・自分の感情を適切に表現する力の獲得が期待されます。成功体験をご家庭での生活に反映できるよう、ご家族と共有していきましょう。
長期目標	見通しを持った生活環境の中で、自分の思いや要求の伝え方を学び、適応の力をつけましょう。
短期目標	学校や放課後等デイサービスでの生活を楽しみ、活動に積極的に参加しましょう。

優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための 本人の役割	評価 時期	その他留意事項
				種類・内容・量（頻度・時間）	提供事業者名 (担当者名・電話)			
1	自分の想いをわかってほしい。	歩さんが、自分の想いや要求を伝えられるよう、歩さんの反応を観察し、伝えたいタイミングを見極める。	6ヶ月 〇年9月	放課後等デイサービス〇〇 小学校と保護者との情報共有 (原則2ヶ月に1回の支援会議を行う)	・小学校 (原級担任・支援級担任) ・放課後等デイサービス事業所	自分のやりたいこと、やりたくないことを、仲間やスタッフに伝えよう。	〇年 9月	自分の情動や対応を的確に他者に伝えることを意識的に取り組んでみて下さい。「その時の心の動きや行動がどうであったか?」「好ましくない行動の時には、どのように対応すればよかったのか?」などの確認をしましょう。
1	友達と一緒に、楽しく活動に参加したい。	〇新しい場所での活動を通じて、友達やスタッフに慣れよう。 〇ルールや予定を分かりやすく伝え、理解して動こう。	6ヶ月 〇年9月	放課後等デイサービス〇〇 (月・木 下校後～17:30)	放課後等デイサービス事業所 児童発達支援管理責任者 (☎ 〇〇-〇〇〇〇)	活動の見通しや活動場面の必要な約束事を教えておいてもらえると落ち着いて参加できます。	〇年 9月	放課後等デイサービスの利用開始となりますが、利用日はカレンダーに印をつけるなどして、予定が分かるようにしましょう。初めての場所や活動には抵抗感がありますので、配慮して下さい。
2	好きなもの、関心のあるものを増やしたい。	〇体を動かすことの楽しさを知ろう。 (虫を探し続ける、DVDを見続けるなど、積極的に体を動かす機会が少ない) 〇歩さんが好きそうなこと、楽しめそうな事に取り組む。	6ヶ月 〇年9月			〇たくさん体を動かそう。 〇スタッフと共に新しい活動にもチャレンジしてみよう。		
2	家でもやり取りをスムーズに過ごしたい(母)	本児の特性を理解し、家族が本児との適切な関わり方を学びましょう。	6ヶ月 〇年9月	〇小学校担任 〇障害児相談支援(適宜)	小学校担任 相談支援センター	〇心配な時や不安なことがあるときは連絡しましょう (母)	〇年 9月	必要に応じて支援会議などで、各機関からの情報共有や連携と支援内容の共有を行いましょう。

子どもの支援利用計画【週間計画表】 《幼児期》

児童氏名	仁成 歩 さん	保護者氏名	仁成 父 様	相談支援事業者名	〇〇相談支援センター
住んでいる市町名	〇〇市〇〇町			計画作成担当者	

計画開始年月	〇年4月
--------	------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00								<生活の様子> 〇月～金 〇〇小学校 特別支援学級 〇月・木 下校後～17:30まで、放課後等サービス事業所を利用。 〇利用日以外の下校後は母・弟と過ごしている。
8:00	起床・朝食							〇生活リズムは安定している。
	登校（家族同行）							<家庭内の過ごし方> 〇放課後等サービス事業所を利用する日は宿題を済ませて帰宅する。 <週末の過ごし方> 〇近くの公園で自由に遊んだり、ショッピングセンターに買い物に出かけたりする。 〇基本的に母もしくは父と過ごす。
10:00								
12:00	〇〇小学校	〇〇小学校	〇〇小学校	〇〇小学校	〇〇小学校	家族と過ごす	家族と過ごす	
14:00								
16:00	放デイ	帰宅	帰宅	放デイ	帰宅			週単位以外のサービス 〇〇〇医療センター 受診 1回/6ヶ月 OT 2回/1か月
18:00	帰宅	母・弟と過ごす	母・弟と過ごす	帰宅	母・弟と過ごす			〇授業内容や学校の体制状況により、家族が授業等に付き添うこともある。週に数日大学生ボランティアが学習支援に入る。
20:00	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	夕食・入浴	
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	
0:00								*放課後等サービスに慣れれば、利用日を増やして欲しいと母親は考えている。（弟とゆっくり過ごしたい）
2:00								
4:00								

支援の実施によって実現する生活の全体像

放課後等サービス事業を利用することにより、遊びや生活の場が保障され、発達年齢/生活年齢に応じた楽しい活動・できる活動を通し社会体験の蓄積が出来、自立に向けた生活の質の向上が期待できます。家族は本人が今後必要となる社会的なスキルの獲得を各場所で得られる事を願っていることから、本人が所属する各集団と家族が互いの情報共有と支援の方向性の統一が必要と考えておられます。連絡を密に取り合いながら、家族の安心が高められつつ、本人の発達を応援する計画としました。

母親中心の子育てであり、小さな弟と共にご本人は自己主張を強く押し通し、関わり難しさや他者介入に応じない姿があります。本人の想いを尊重しながら、あらゆる場面で「選ぶ」機会を保障し、自分の想いと異なる状況においても適切な行動を知り、振る舞いの経験値を積み重ねる取り組みが必要です。（事後の情動を事前に推察でき適応行動が増える）

資料(放課後デイ)1-4

放課後等デイサービスでのアセスメント① 7歳〇か月時点

2月〇日見学・体験、3月〇日面談(母と児童発達支援管理責任者)

※下記アセスメントにおいて、(母)の記載は面談やサービス担当者会議で聞いたこと、(学校)の記載はサービス担当者会議で支援学級の担任から聞いたこと、特に記載のないところは見学体験時の様子。

項目	本人の様子
食事	・箸を使用。(母) ・よく噛んで食べる事が苦手で、飲み込んでしまう事が多い。(母)
排泄	・排泄はほぼ自立。 ・出かける前はトイレ誘導が必要な時もある。(母)
着脱	・ほぼ自立。(母) ・衣類についているタグを手がかりに脱ぎ着している。(母) ・ハンカチをズボンにしまう事が嫌い。(母)
対人・コミュニケーション	・初めての場所は戸惑う様子も見られるが、興味がある事柄では、お友だちと一緒に遊びたいという気持ちからお友だちに近づき、真似をしたりしている。
言語	・「〇〇やっていい？」等簡単なことは大人に言葉で伝えることができ、聞いてから行動することができる。 ・嫌な時にぐずぐず言い、寝転び抵抗する時がある。(母) ・うまく言葉にできない時は、本人の思いを大人が汲み取りながら焦らせずに進めていくと本人にとって落ち着いて適応できるようになってきた。(学校) ・具体的に短い言葉で伝えられるとわかりやすい。ひらがなや絵カードなど視覚的な提示があるとより理解しやすい。
遊び	・自宅では電車の動画を見るか、外で虫探しをすることが多い。(母) ・戦隊ヒーローのテレビ番組は小学生になってから興味をもつようになった。(母) ・パズル(50ピースくらい)ができる。 ・慣れた友達とは追いかけて遊ぶ。

資料(放課後デイ)1-5

放課後等デイサービスでのアセスメント② 7歳〇か月時点

項目	本人の様子
家庭の様子(母)	・通学から下校までの付き添いをして本当に大変だが、先生も子どもたちも気にかけて下さり、通学同行も学校生活の様子が見られ結果的には良いと思っている。(母親の就労・事務パート、9:30~14:00(土日祝/休)) ・母が強い態度で指示を出すまで、宿題に取りつかれない。家では母の指示しか聞かない。 ・父も子育てには協力的ではあるが帰宅時間が遅い。
学習(学校)	・特別支援学級(知障学級)に在籍。入学当初は落ち着かない状態が多かった為、原級への行き渋りがあり、支援級中心に過ごしてきたが、学習内容を支援級と原級の違いを明確にしたことで、行き来がスムーズになってきた。 ・授業内容によっては自分で予定を勝手に決めつけてしてしまうこともある。 ・字や絵を描く事、算数プリントは好き。音読は苦手だが、ひらがなは読める。
集団参加(学校)	・クラス全体で動くことが苦手なので、小集団、特定の人間関係の中から、集団に慣れてきた。 ・原級の友だちが本人にすべき事を教えてくれる時は、本人も比較的スムーズに受け入れられる。 ・体育館で全体行事が行われる際には、集団から離れる時がある。他児の活動の様子を見て、自分なりにその場を受け入れられると、内容を真似てみたりする。予測しない場面で、大音量で音楽がなると、両耳を押さえて「怖い」を連発する。特に抵抗が強くなると泣き騒ぐことがある。 ・時間割が書かれていると、日課に沿って過ごすことができるようになってきた。が、初めての活動には混乱し、不安や緊張がある。特に、運動会の練習は参加するまでに時間がかかった。 ・お帰りの支度などルーティン化した日課は、先生が付き添わなくても自分で行うことができる。
地域	・地域の行事やお祭り等にも参加する。(母)
本人のニーズ	1. 友達と一緒に、楽しく活動に参加したい。 2. 自分の想いをわかって欲しい。
家族のニーズ	1. 歩さんと弟の送迎があり、子育て疲労がある。弟の時間も作りたい。 2. 子どもも集団での楽しさを体験して欲しい。良いモデルから学んで欲しい。
地域連携	1. 初めての場所なので少しずつ慣れて行きながら、地域の中で同年代の子どもたちと触れ合う機会を持ってほしい。